



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第426号

福音を伝えるための熱意と歩みをもって

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

萩への巡礼を経験した私たちは、伝えられた福音によってキリストと出会った人々が生かされてきたという事実に触れ、福音を伝えることが私たちに課せられた大切な使命であると確信するに至ったのではないのでしょうか。

さて、これから過ごす10月は、教会では世界宣教月間と位置づけられています。先人たちの姿に触れた以上、何も行動しないではいられないはずです。私たちはその先人たちの姿を通して、福音をもっと深く受けとめ、受け入れるという決意が必要なこと、そして、その福音が人としての生き方に深く関わってきたという事実にあらためて触れたのですから。世界中の教会とともに、受難と死を通して復活されたイエスへの信仰をあらためて宣言し、先人たちに倣いながら私たち自身の生き方に反映させていかなければなりません。

教皇フランシスコは今年の「世界宣教の日」(10月22日)を前に、エマオにおける復活されたイエスと弟子たちとのエピソード(ルカ24・13~35)を取り上げ、世界中の教会にメッセージを送られました。テーマは「燃える心、踏み出す足」。まさに、エマオでの出来事を中心にあるテーマはこれなのですが、教皇は復活したイエスとの出会いによって変えられていった弟子たちの姿を3つの段階に分けて説明しています。ただ、私たちはこの3つの段階に至るためには、まず、世界中に漂う、ある種の倦怠感のようなものがあることを思い起こさなければならないでしょう。つまり、今を生きる人類の間には希望がなく、明るい未来も訪れないだろうと自らに暗示するようなものが漂っているということです。このようなものが怖いのは、そのままにしておくと皮肉にも人類自らの手によって希望のない未来を作り出すようにそそのかすところにあり、既に世界中に漂っているわけですから、私たちも飲み込まれてしまう危険性が十分にあるのです。

エルサレムからエマオへ旅を続けていた2人の弟子は“自分たちを満たしてくれた主イエスを失った”と失意のうちに日々を送

図書室より	2面
外国語ミサの話(1)	3面
幼稚園から	4面
ハクソー・リッジ	5面
委員会等報告	6・7面
お知らせ・営繕部より	8面

り、十字架という凶器によって師と仰ぐ者の命が無残に奪われた現実の先には希望ある未来が訪れるはずもないとして、弟子たちの集まりからも遠ざかって行ったのです。しかし、そのような体験が彼らの歩みを方向づける前提となったのです。

福音を伝えるために、私はまず、この2人の体験に共感することから始めるべきと思います。人生において倦怠感のような空気が漂う現状のなかで体験する苦しみや挫折を味わうからこそ、あらためて受難と死を通して復活された主との出会いによって熱意が呼び起こされ、希望ある未来は来ないという空気に流されて失いかけた歩みを一歩ずつ進めることができるのです。

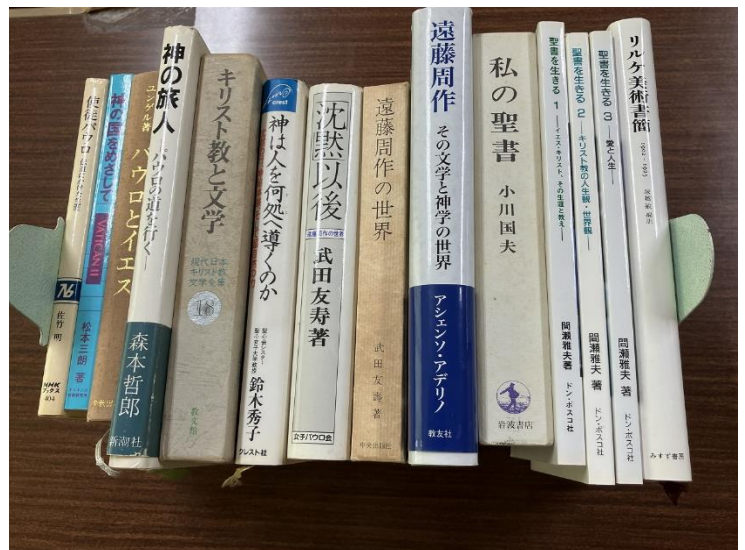
「揺るぐことのなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中の至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。」(コロサイ1:23)



図書室より

豊永眞理子

さる8月13日、9月3日、10日のミサ後、ふれあい会のお茶テーブル横で、聖書100週間で使用した祈りの本、重複した聖書や本等を希望者に譲る試みを始めた。お茶を飲みながら立ち止まってペラペラとめくり、本のおしゃべりをし、小学生も聖書を持ち帰ってくれた。良いスタートだ。これからも毎月2回を続けて色々な方に見てもらいたい。個人的な寄贈に加え「福岡黙想の家」からの本も来月には図書室に並べられるだろう。



外国語ミサの話 (1)

岩本光弘

30年前から外国籍の人たちのための活動をしてきましたが、私の体力も限界にきて以前のように動くのは無理になりました。それでも各地の外国語ミサには時々行くことにしていました。

以前から来日はしていましたが、5年前からベトナム人技能実習生の来日が急増しました。それに伴いカトリック信者の実習生も増えてきました。

福岡では早くから浄水通教会でベトナム語ミサが始まり、ここにはかなり遠いところからもベトナム人の留学生や技能実習生がミサに来ていました。福岡の活動仲間からその話を聞いたので私も初めてベトナム語のミサに与ることにしました。

始めて行ったベトナム語ミサには衝撃を受けました。若い人がほとんどだったことあるでしょうが、聖歌や祈りの声が大きいです。水巻教会と同じくらいの広さの浄水通教会が割れんばかりの歌声に包まれるのです。初めてベトナム語ミサに参加した人は大抵この音量の大きさに圧倒されます。言葉が分からないのですが、同じ内容の祈りでも長さが違うのには混乱しました。主の祈りでも翻訳が違うとこんなに長さが違うのかと思いました。

ミサが終わった後に聖堂の外にお菓子などを置いて懇親会がありましたが、以前水巻教会に来ていたベトナム人の青年も来ていて、岩本さんと声を掛けられ再会を喜びました。

その後も何度か続けて行きましたが、ある日ミサが終わってすぐに一番後ろに座っていた私の所に司祭が来ました。そして「あなたはカトリックの信者ですか」と聞くのです。聖体拝領をしたのに気が付いてなかったのかと思いました。「そうです」と言うとそのまま祭壇に戻っていきました。翌月に浄水通教会のミサに行くと、またミサの終わりに神父が来て同じように「あなたはカトリックの信者ですか」と聞くのです。「俺は全く信者には見えないのだ」と自分にあきれたのですが、この神父はどうして自分だけに聞きに来るのだろうと思いました。信者ではない日本人が来るのはいけないのかとも思いました。

ところがミサ後に外に出ると神父が来て「頼みがあります」と言われました。話を聞くと、次のご復活の時に洗礼を受けるベトナム人の留学生がいるので代父になって欲しいということです。その後何か月か続けて行き、準備をしてご復活祭のミサの時に代父をしました。

このときの司祭は香椎教会にいるドミニコ会のピーター神父でした。ピーター神父とはこの後とても親しくなり、各地のベトナム語のミサに行って私が活動するのを手助けしてくれました。毎回ミサの最後に神父が「今日は岩本さんが来ているので話をしてもらいます」と言ってくれるようになり、私も色々な資料を渡して話をすると通訳もしてくれました。

小倉の留学生問題の時は私に同伴して欲しいと頼まれたりしました。神父がいる箱崎教会でもベトナム語ミサがあったので何回も出かけました。ミサ以外でも長崎管区の会議も一緒に参加して親しくさせてもらったのですが、昨年修道会からローマへの留学を命じられてローマへ勉強に行かれました。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 10月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

2学期が始まりました。始園式では、イエス様の前で静かに手を合わせ、自分の気持ちを神様にお話している子ども達でした。2学期から4名が入園し、お部屋のお兄さん、お姉さんと過ごすなかで、少しずつ幼稚園に慣れていきます。これからもたくさんの方に挑戦できるように見守ってまいります。

運動会の練習が始まり、子ども達は新しいことに挑戦しています。自分で出る種目を選択し、練習に励んでいます。体操でできるようになったこと、かけっこで1番になったことを、嬉しそうに話してくれる子どもたち。1つ1つのことが子ども達の自信に繋がっています。今年の運動会のテーマは「こころはやさしく からだはつよく」です。本番が楽しみです。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559
e-mail : ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉

子ども達と一緒に、収穫した後の、西瓜のツルや茄子の枝を片付けました。「まあるい、大きなスイカができたね!」「このくらいのナスがなったね!」「ナスの花は、きれ



いな紫色だったね!」などと話しながら。9月になり、大根の種を蒔きました。「こんなに小さな種から、大きな大根ができるのよ。すごいね!」

やっと、早朝の風に涼しさを感じる頃になり、駆けっこを始めました。「ビワの木まで、ヨーイドン!」さつま芋畑の間を走ります。ビワの木に着いたら、「今度は、朝顔さんまでヨーイドン!」畑や庭の上をトンボが飛び交っています。芋畑でバッタを見つけました。もう少し涼しくなったら、幼稚園の園庭を走ろうね。



TEL : 050 5212 7759
HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美
教職員 一同

ハクソー・リッジを鑑賞して

山口一隆

近頃見た映画で印象に残ったのは「ハクソー・リッジ」という戦争映画だ。信念を貫くという勇氣、そしてその困難さがみごとに描かれている。あらすじはこうだ。

アメリカのある田舎町のドスという青年が主人公。時はハワイの真珠湾攻撃を皮切りに太平洋戦争が始まって1,2年が経とうとしていたあたり。真珠湾攻撃が宣戦布告前に行われたことに腹を立てたアメリカの青年たちが、多数応募兵として戦場へと駆けつけた。ドスも数多くの青年たちが戦争に行く姿を見て自分も参加しなければならないと考えた。ただ、彼には一つの大きな決心があった。

軍にあっても「銃を手にしない」。入隊願書の希望先には衛生兵と書いた。

だが、入隊すると基本教育がある。これには銃の射撃訓練も含まれる。運動能力、基本学力などは優秀だが、射撃訓練には断固として銃を手に取らない。部隊の下士官たちは躍起になって銃を手にさせようとするが、「自分の希望は衛生兵であり、銃を手にする必要がない」と、どうしても銃を手にしない。ここから上司、同僚からの執拗ないじめが始まる。言葉でのいじめ、仲間外れ、ドス一人のために集団責任で外出禁止を食らい、その鬱積から集団暴行に発展したことも。

上司のいじめもまたひどい。ドスには結婚を約した彼女がいた。教育期間終了まじかの休暇に結婚式を挙げるよう申請まで出していたのに、教育が完了していないことを理由に禁足を言い渡された。今からでも銃を手にしたら外出許可を出すという。それでなければ命令違反で営巣(軍刑務所)送りだと脅される。「彼女は自分を理解してくれる」と信じ、これも拒む。

やがて、軍事裁判の日がやってくる。軍事裁判官は言う「軍において銃を手にしないということは兵役拒否に他ならない」。これに対しドスは「兵役を拒否した覚えはなく、よって志願してここにいる」と反論する。この席に彼の父が突然闖入してくる。父が参加した第一次大戦時の軍服を着てである。父は一通の書類を裁判官に手渡す。しばしの沈黙。やがて口を開く。「この案件に関しては兵役拒否にあたらぬ。よって本人の希望を入れて衛生兵として軍に留まることとする」と結審した。

実は、ドスが銃を手にしない決心をしたのはこの父が要因だ。先の大戦で心に大きな傷を負った父は、帰国後酒浸りの生活になり、家族たちもその粗暴さに心を痛めていた。ドスが少年から成年への入り口に入ったころ、家庭内で父の暴力が始まった。母を殴り、銃まで出してそれを母に向けた。ドスは止めに入る。もみ合っているうちにドスが父から銃を取り上げ、その筒先を父に向けたのである。「今度、母に銃を向けたら本当に引き金を引いてやる。」その時は本当にそう思った。

この出来事がトラウマとなり、ドスは、以後銃を手にしないことを心に誓ったのだ。

その父が、ドスを救うため力を貸してくれた。和解である。実は題名となった「ハクソー・リッジ」の激しい戦闘場面やドスの活躍はこの話以降である。興味を持たれた方は本編をご覧ください。ちなみにハクソーは「のこぎり」、リッジは「険しい崖」を意味するらしく沖縄の前川崖がモデルらしい。実話です。

委員会等報告

2023年9月分

9月度小教区委員会 9月3日

1. 行事予定

- ・10月1日(日) 小教区委員会
- ・10月8日(日) 教会学校
14時～地区聖書講座(新田原教会)
- ・10月15日(日) ミサ後～大人の日曜学校
18時～ベトナム語ミサ
- ・10月22日(日) こころの会(教会学校を兼ねる)

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

① 広報委員会

- ・ 萩巡礼のしおりの原版を本刷りする前に全員で確認し、調整して9月17日(日)ミサ後の説明会で参加者に配布する。

② 典礼委員会

- ・ 9月10日(日) 18時より典礼委員会を開く。聖歌隊からの要望(ベトナム語の聖歌を取り入れたいとの)、ミサにあずかる際の持つべき姿勢の確認、待降節および降誕節の典礼についてなどを議題として挙げる。

③ 総務委員会

- ・ 議題(4)を参照のこと。

④ 営繕の部

- ・ 部としての活動に協力いただける方を本格的に集める(「からしだね」10月号にも載せる)。
- ・ 映像を映し出すためのスクリーンの導入を検討中。

⑤ 納骨堂管理の部

- ・ 現行の規約を改訂するため、納骨堂の利用者の中から数名に声をかけて改訂集会を開き、作業を進めている(北九州市小倉南区の葛原にある「カトリック北九州納骨堂」との連携も視野に入れて)。

⑥ 冠婚葬祭の部

- ・ 松尾恵子氏より代表委員を辞退したいとのこと。現在は(田中禮子氏が)代理を引き受けているが、今後、小教区委員会で正式な代表委員を選定して欲しい。

⑦ 北九州地区宣教司牧評議会

- ・ 9月17日(日) 14時～小倉教会にて、第2回北九州地区聖書講座(小倉教会)。あらためて参加の呼びかけを行う。
- ・ 10月15日(日) 14時～小倉教会にて、ディエゴ 加賀山隼人と同志殉教者記念ミサ。呼びかけと並行して、マイクロバスを出せないかも検討中(赤石氏、浅田氏に一任)。

(2) 小グループとして「召命を祈る会」を加えることについて

- ・ 昨今、世界的にもまた教区としても司祭や修道者を目指す人の減少は顕著。そのことも影響し、福岡の大神学院が今年度で閉鎖となる。そこで、「北九州地区 召命を祈る会」の担当司祭より、各小教区に主任司祭と共に召命活動と呼びかけるための窓口を設置し、結果的にグループとしての位置づけができるように働きかけて欲しいとの提案があった。現在、当教会では6名が集まって活動を始

めている。

・上記に関連し、北九州地区の全信徒に呼び掛けて11月11日(土)10時~小倉教会にてアベイヤ司教様による召命祈願ミサを行うこととなった。呼びかけと並行して、マイクロバスを出せないかも検討中(赤石氏、浅田氏に一任)。

(3) 9月23日(土)の萩への巡礼に関して

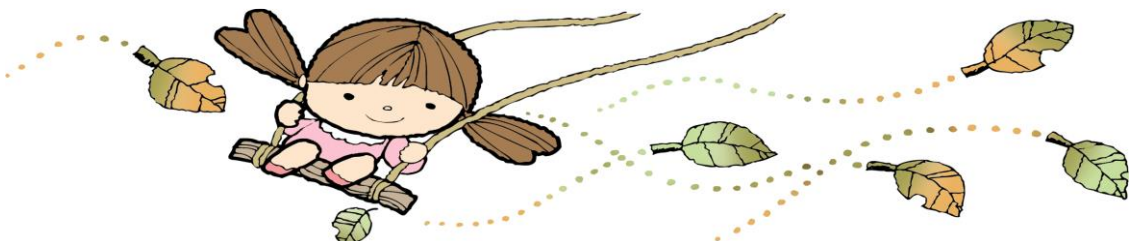
- ・スケジュールの確定(報恩寺での滞在時間は15時~16時のあいだのみ)。
- ・カトリック萩教会の司祭1名と信徒3名が現地で合流(弁当の手配は3名分)。水巻教会からの巡礼参加者は9月3日現在、51名となっている。
- ・保険の加入、点呼のための名簿作成、巡礼のしおり作成、救急箱の薬品管理、9月17日(日)ミサ後に行う巡礼参加者のための説明会(スケジュール、萩教会の信徒へのお礼、ミサ献金の協力、諸注意事項等の伝達)と参加費の徴収。
- ・報恩寺のご住職への謝礼として参観料¥200×51名分を準備、当日にお渡す。

(4) その他

・各委員長、代表委員、地区委員は水巻教会の信徒を代表する立場のため、重ねて、小教区委員会の例会を欠席する際には必ず代理者の出席をお願いしたい。そのためにも、臨

時地区集会や委員会を開くことには意義がある。

- ・11月3日(金)に行われる神学院祭への参加を大々的に呼びかけることにする。呼びかけと並行して大型バスを手配しておく。
- ・パリ外国宣教会のベリオン神父様(現聖堂建立の際の主任司祭)が、来年、フランスに帰国されるため、来年の四旬節黙想会の指導を依頼するのと並行して送別会も催すことにする。
- ・ご受難修道会の宗像黙想の家より52冊の蔵書を寄贈していただいた。教会として礼状を出す。
- ・現在、「こころの会」の上映は聖堂壁面に投影して行っているが、特に字幕が見えないとの声があり、投影スクリーンを活用して欲しいという声がある。あわせて、「こころの会」を立ち上げた意味を小教区委員会の一人ひとりが全信徒に向けてもっと発信できるように配慮する。そのため、以下のことを確認した。
 - 1、ミサ後の“お知らせ”の時間を活用して活動内容を周知してもらう。
 - 2、聖堂内がどうしても光が差し込む環境なので、スクリーンの導入も必要だが、窓に暗幕を張れるように工夫する。
 - 3、「こころの会」がもっと参加者からの要望を吸い上げられるように働きかける。



10月のおしらせ

★10月はロザリオの月★

10月はロザリオの月です。

ミサの前、午前8時50分からロザリオを唱えます。

皆さんの参加をお願いします。

★大人の日曜学校★

日 時：10月15日(日)ミサ後

テーマなど詳しいことは、週報やミサ中のお知らせでご確認ください。

★ディエゴ加賀山隼人と

同志殉教者記念ミサ★

日 時：10月15日 午後2時から

場 所：小倉教会

教会よりバスが出ます。

★新しい小グループ★

北九州地区「召命を祈る会」の担当司祭より、各小教区に主任司祭と共に召命活動を呼びかけるための窓口を設置してほしいと依頼がありました。そこで水巻教会でも小グループとして「召命を祈る会」を発足させました。代表は梅ノ木地区の対馬須美江さんで、今現在メンバーは6名です。

★新しいミサ曲の練習★

今、ミサではミサ曲 A を歌っていますが、ミサ曲 B の練習をしていきたいと思っています。今後、練習をしていきますので、参加をよろしくをお願いします。



水巻教会営繕部よりのお願い

岡部

今ある水巻教会の聖堂、信徒会館、その他の周辺も、間もなく30年経とうとしています。あちこちに改修工事が必要な経年劣化がみられるようになりました。私たちが水巻教会を意識するのは、週一回が大多数だと思います。多い人でも2,3回ではないでしょうか？目にする機会が少ないので、傷んだ教会を意識することは少ないのではないかと思います。

皆さんがいつも住んでいる住まいは、毎日居るところなので不具合、汚れ、壊れているところが目につき気付きやすく知っているところばかりだと思います。そして何らかの手を入れようとするでしょう。ところが今の、水巻教会では何が維持管理のために必要であるのかを知ったり、話したりする機会がないと思います。

そこで、営繕部員を募集します。建屋内外の異常・変化のチェックをする、仮の名で「見回りパトロール隊」の結成です。よろしくをお願いします。